



「レイ様...♡
レイ様っ...♡♡」

「やっ...ジムキ...」



「気持ちいです♡レイ様……」



「騎士さんー」

「キキ」

「仕方ない騎士さんですね！」

早く出しちゃってください」

「こんなにも大きなものが……
私の中に……入るのだらっかっ！」





「んっ♡
はっ♡」

「ツムギ…」

ズッ

ズッ



「♡♡おっ!!おっ!!おっ!!」

おっ!!

おっ!!

おっ!!



「んっ♡はっ♡」

嘘…ツムギがこんな気持ちよく…

んっ!
はっ!

んっ!
はっ!

んっ!
はっ!



レイ様...♡♡

.....♡♡キョ〜



「騎士さん！」

レイ様に入れて一緒にイかせましょう」

「やめて……ジムっ……」



レイ様...♡

っ

ミスパ

ズッ



「アーおっ♥
アーおっ♥♥」

「……おっ……」
「おっ……」

おっ!!

おっ!!

おっ!!



こんな事いけないのにな

はぁっ
はぁっ
はぁっ

はぁっ

はぁっ

はぁっ



「レイ様のマントと騎士さんのチンポが擦れて...
私までいっせやいせんですす♡」

「...いっせやいせんですす♡」

いっせやいせんですす♡

いっせやいせんですす♡

いっせやいせんですす♡



「私も限界…♡騎士さん…
レイ様…一緒にイさまじよう♡」

Eoooo…

110!!
110!!
110!!
110!!





「ムーわん♥
遊んで…♥」

「♥…♡♡」



「まったく騎士さん
もう……」

「じゃあ…次は私に入れてください…騎士さん♡」

「♡」





「こんな巨尻するのは、キミだけだよ」

「...ふふふふ、面白くて仕方ないわね、おっぱい」